

# いまさら聞けない“金融経済”シリーズ vol.3

**今回のテーマ**  
**ポートフォリオって？**  
 ~大切な資産を守り、育てる~

みんな、久方ぶりじゃの。またまた登場、ドクターロウキンじゃ。前回までの学習で、「円安と円高」について学び、為替や金利の影響で資産価値が日々動いていることを学んできたぞ。今回は自分の資産について考えてもらいたいと思っておるぞ。そのためにもまずはポートフォリオについて学ぶことが重要じゃ！聞き慣れない言葉かもしれないが、きっと学び終わったら理解しているはずじゃ！



それではレッツゴーじゃ!!

## 円高と円安が資産に与える影響

- 円高 → 海外資産の価値減少
- 円安 → 海外資産の価値上昇
- その他 企業業績にも影響(株価の増減) 為替や金融政策など様々な要因が金融資産に影響を与える

前回までのおさらい

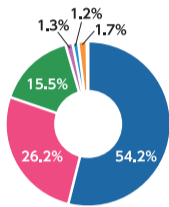
## ポートフォリオとは？

みんなは自分の資産がどのように構成されているか考えたことあるかな？

普通預金/定期預金/保険/国債/投資信託/外貨預金/株式/不動産

様々な種類があるが、みんなの資産はどうかの？

参考ではあるが、日本銀行が公表した2022年の「家計が保有する金融資産」は総額2,043兆円でそのうち54.2%が「現金・預金」、26.2%が「保険・年金・定型保証」、15.5%が「株式・投資信託」...といった具合になっているぞ。



### 2022年度 金融資産残高(金融商品別構成割合)

- 54.2% 現金・預金
- 26.2% 保険・年金・定型保証
- 15.5% 株式等・投資信託 受益証券
- 1.3% 債券証券
- 1.2% 対外証券投資
- 1.7% その他

このように金融資産の配分(組み合わせ)のことを「ポートフォリオ」というのじゃ。

ポートフォリオを知ることが自身の資産管理に活かされていくぞ!

## まずは家計の金融資産のポートフォリオを確認することからスタート!!

家計の金融資産がどのようなポートフォリオになっているか、下の円グラフに当てはめて確認してみよう!



ポートフォリオはどうだったかな？

保有している資産に大きな偏りがあった場合には要チェックじゃ。

## 資産の配分に大きな偏りがある場合のリスクを知る!

人によっては意図的にポートフォリオを偏らせている場合もあると思うが、意図せずに偏っている場合は注意が必要じゃぞ。預金商品・資産運用商品それぞれに大きく偏っている場合の例をしてみるぞ!

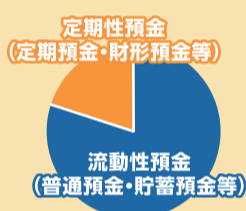
### 1 金融資産が預金商品のみで構成されている場合

#### 《メリット》

- 元本割れの心配がない
- 必要な時にすぐ使うことができる

#### 《デメリット》

- 物価上昇時に資産価値が減少
- 低金利下では資産が増えにくい



預金商品にもデメリットはあるんじゃな

### 2 資産運用商品に大きく偏っている場合

#### 《メリット》

- 高い利回りが期待できる

#### 《デメリット》

- 急な出費時に資金化に時間を要する場合がある
- 金融経済情勢によって資産価値が減少する可能性がある



リスクの取り過ぎにも注意が必要じゃな

それぞれ良い点だけでなく注意すべきところがあるぞ。自身のライフスタイルや将来のライフイベントに備えながら、自身に合ったポートフォリオを考えることが大切じゃ。意図せずポートフォリオに大きな偏りがある場合には、一度自身のポートフォリオを見直して確認することが必要じゃな。

## POINT

## ポートフォリオを見直す上で知ってほしいポイント



**投資の格言**  
 “卵は1つのかごに盛るな!”

かごを落としたら全部割れる

||

すべての資産がゼロに

※卵を金融資産と仮定



ポートフォリオを考えて、複数のかごで卵を持つことが大事!!

一つのかごを落としても別の卵は無事!

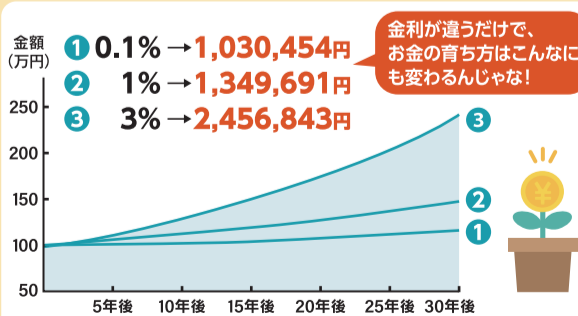
上記イメージのように1つの会社に全ての資産を投資していた場合、経営環境の悪化により会社が倒産したら、資産は全て無価値になってしまうぞ。ちなみにリーマンショックがあった2008年は15,646件の企業倒産があったんじゃぞ..

このように卵を別々のかごに入れておくことで、1つのかごを落としても卵が全てなくなってしまうことはないぞ。ポートフォリオを預金・資産運用商品などバランス良く構成することが自分の資産を守るリスクヘッジにつながるということじゃな。

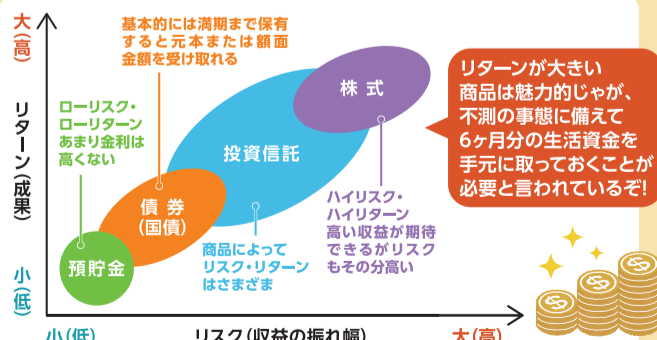
## 金融商品を選ぶ際の参考に!!

### 《金利の違いによる資産の育ち方》

※100万円を30年間運用した場合の差



### 《金融商品ごとのリスクとリターン》



※これは一般的なイメージ図であり、すべての金融商品が当てはまるものではありません。

ポートフォリオについて理解できたかの？家計の金融資産についてポートフォリオを知ることが大切な資産を守ることに繋がるとも出来るんじゃ。定期的に見直ししながら自身や家庭に見合ったポートフォリオで安心できる暮らしを目指して行こうぞ。

そして困ったときは、お金のプロである(ろうきん)に相談することじゃな。大切な資産づくりのサポートをしてくれるはずじゃ!!

